

☆医療ケア児の介助者、半数以上「働きたい」 中信地方の母親、長野県内調査

信濃毎日新聞デジタル 2022/01/31

<https://www.shinmai.co.jp/news/article/CNTS2022013100129>

> たんの吸引など医療的な介助が日常的に必要な「医療的ケア児」を育てる中信地方の母親3人が昨年8月に行った介助者へのアンケートで、回答者のうち就労しているのは3割余にとどまり、半数以上が就労したいと考えていることが30日、分かった。経済的な不安を感じていたり、介助のために離職せざるを得なかったりするとの回答が目立った。医療的ケア児支援法では離職防止への支援を打ち出しており、就労支援態勢の拡充を望む声が上がっている。

介助者の実情を把握するためインターネットで実施。県内の保護者ら80人から回答を得た。就労希望の有無を問う質問では「希望あり」が54%、「就労中」が33%、「希望しない」が13%＝グラフ。自由記述欄には「自宅でのケアが必要なため働くことができない。経済的な不安が大きい」「日常的なりハビリやこども病院への通院、学校への送り迎えなど有給を使い果たし、職場にいづらくなって退職した」といった声が目立った。

医療的ケア児の家庭では昼夜を問わず介助するケースが多く、精神的負担が重かったり、就労が難しかったりする。医療や福祉サービスで利用したいサービスとして「医療型児童発達支援」が37%、「医療型入所施設」は34%、「移動支援」が32%、「保育園」が29%などと続いた。

理由として「休息時間の確保」を挙げる人が47%と最も多く、「子どもに必要な支援」が20%、「就労のため」が19%＝同＝などとなり、介助者が預け先を必要としている事情も浮かび上がった。

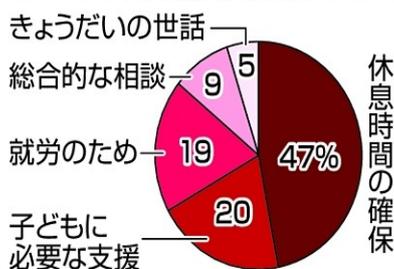
アンケートを行った1人で、医療的ケア児を育てる塩尻市の母親(33)は「働きたいという声が多いことに驚いた。家族は休息も必要で、子どもを預ける施設が必要という確信を持った」と話す。

県医療的ケア児等スーパーバイザーの亀井千泉さんは「多くの保護者が就労を諦めている。預ける施設などは整っている地域が多いので、情報が行き届いていない可能性がある」と指摘している。

母親たちはアンケート結果を基に医療的ケア児を育てる家庭の実情を自治体などへ伝えていく考えだ。

…などと伝えていきます。

一時預かりなどのサービスを利用したい理由



就労希望

